

ケアマネジメント実践ネットワーク メールマガジン Vol.2

2023/6/20 配信分



今回のメインピック

適切なケアマネジメント手法実践研修における事例の紹介 part 1

性別	女性	認定区分	要介護 2	年齢	92歳
居住形態	一戸建て、長男家族同居		主な疾患	高血圧、脳梗塞、変形性両膝関節症	
利用サービス	通所リハ（週3回）、訪問看護（週1回）、福祉用具レンタル（置き型手すり、歩行器、車いす）				

この事例を選定した理由：長く担当して変化もない中、改めて支援内容を検討したい

担当して6年目、これまで症状に大きな変化はなく、ケアプランの大きな変更もなかった。一方、毎年暑い時期は**脱水傾向**となり、入院には至っていないが、**発熱、転倒が増加**していた。今後も健康に過ごしてもらうため、実践研修の機会に**利用者本人、家族を巻き込み、改めて支援内容を検討したい**と思った。

研修開始時における事例の課題：脳梗塞再発予防と転倒リスク軽減に向けた対策の構築

毎年暑い時期になると**脱水傾向**があり、**発熱・転倒の頻度が上がる**。また、長男家族と同居しているが、各々仕事・学校があるため、**日中は1人で過ごしている**。家族の声掛けがない**日中は水分摂取量が少ない**。以上を踏まえ、**脳梗塞の再発予防と転倒リスクの軽減に向けた対策が必要**である。

実践研修で着目した基本ケアの項目と実際の取り組みと変化

📌項目8 水分摂取状況の把握の支援

研修開始時、長男嫁は「昔から水分を摂らない、無理に飲まなくても良いと思っている」と言っており、**支援方法を悩んでいた**。実践期間には、**利用者本人と主介護者の長男嫁に水分量や摂取時間、用いているコップを確認**した。水分摂取には500mLの水筒を用いていた。水分摂取の重要性を伝えたところ、**長男嫁から「水筒のサイズを750mLにすると水分摂取量が増えるのではないかと提案**があり、家族との信頼が深まったと感じた。また、**介護サービス利用時の水分摂取量を多職種から共有**してもらったり、**サービス利用時に水分摂取への声掛けの回数を増やしてもらう**ように要請した。

📌項目20 フレイル予防のために必要な食事と栄養の確保の支援

長男嫁に自宅での食事内容を確認し、**たんぱく質摂取量が少ない**ことがわかった。たんぱく質を取り入れたメニューと一緒に検討し、**おかずの置き換えや1品プラスを実施**した。また、**通所リハでの昼食とメニューが被らないよう配慮**してもらった。一方で、長男嫁自身が苦手なものを食事に取り入れたり、食事記録アプリの利用等の対応は実現できなかった。**必要な支援と家族の負担のバランスが難しい**と感じた。

📌項目27 継続的なリハビリテーションや機能訓練の実施

実践期間に**本人やご家族から、「もっと歩きたい」という意見**が出た。そこで、**通所リハの理学療法士に希望を伝え**、変形性両膝関節症の症状を考慮した上で、現状や歩行の維持・改善について検討し、**通所リハにて歩行訓練を重点的に取り組んでもらう**ことになった。

「適切なケアマネジメント手法」基本ケアに関する資料は下記HPから閲覧できます。

URL : <https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/caremanagement/04/>

▼冊子



▼項目一覧



令和4年度に実施した実践研修の効果

令和4年度に実施した実践研修を通じて、以下の効果が確認されました。

①ケアマネジャー自身の気づきの効果

自己点検や情報の深掘りを通じてケアプランの抜け漏れに気付き、**情報収集量が全体的に増加**
例えば項目3 口腔内の異常の早期発見と歯科受診機会の確保では、**60.8%⇒74.7%へ増加**

③本人や家族のエンパワメントに繋がる効果

研修を通じて利用者やその家族に、「コミュニケーション円滑になった」、「本人の望む暮らしを意識するようになった」等の変化を感じた方が**約40%**
本人の「状態が改善した」と感じた方が**23.3%**

②支援内容やケアプランの見直しが進む効果

研修中に**支援内容の変更に至った事例が69.6%**、**ケアプランの変更に至った事例が51.8%**、中には研修開始時に見直しは不要と考えていた項目を見直した事例もあった

④多職種連携(情報収集/共有)が加速する効果

他の職種からの情報収集や他の職種への情報提供の機会が増加、他の職種と「コミュニケーションが円滑になった」、「情報提供の質/頻度が上がった」と感じた方が**約40%**

詳細な検証データは、「適切なケアマネジメント手法実践研修」実施報告書をご参照ください。 URL : <https://www.jri.co.jp/file.jsp?id=104898>



適切なケアマネジメント手法検討委員インタビュー動画紹介

「地域における医療介護連携のあり方と今後」

医療法人博仁会 志村大宮病院 理事長・院長

鈴木邦彦 先生

鈴木邦彦先生は、茨城県医師会会長として、地域の医療介護連携にご尽力されています。動画では、「地域における医療介護連携のあり方と今後」というテーマで、地域包括ケアシステムの基本から高齢者医療と介護の関わりまで幅広くご説明いただいております。

人口減少と高齢化が進む日本において、地域に密着した医療の需要はより高まることが予測されます。その中で、かかりつけ医、訪問看護師、地域包括支援センター等と連携していくことが非常に重要となります。地域医療・在宅医療に関する鈴木先生の解説を聞き、日々のケアマネジメントにおける多職種連携に役立てていただければ幸いです。

動画の視聴は
こちらから！



このメールマガジンで取り扱って欲しいトピックを募集しています！

このメールマガジンでは、今後も「適切なケアマネジメント手法」などケアマネジメントに関する情報を発信していきます。ケアマネジメント実践ネットワーク会員の皆様は、このメールマガジンで取り扱って欲しいトピック、提供して欲しい情報などがございましたら、下記のお問い合わせ先までメールにてお気軽にご連絡ください。

次回の配信日は**2023年7月11日（火）**を予定しております。



お問い合わせ先

株式会社日本総合研究所 創発戦略センター ケアマネジメント実践ネットワーク事務局 辻本、山内

E-mail

100860-caremaneML@ml.jri.co.jp

※事務局内での管理・共有のため、メールでのご連絡をお願いしております。